

## ・・・カーボン ニュートラル・・・

### 1. 前書き

最近、テレビや新聞、至る所で「カーボン ニュートラル」、或いは「脱炭素化社会」という言葉を耳にしたり見たりします。

逗子市では、本年1月31日付で、市長が「チャレンジ！逗子カーボン ニュートラル2050」を宣言しました。その中で2050年カーボン ニュートラルの実現を約束しています。

国では、2020年10月の菅総理大臣の所信表明演説の中で、「我が国は、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、即ち2050年カーボン ニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを、ここに宣言します。」と表明しました。

### 2. パリ協定

今、地球の温暖化、それによる異常気象の発生、海水面の上昇と陸地の減少が現実のものとなっています。その原因は、産業革命以後人類が石炭・石油等の化石燃料といわれる資源を多量に使用した結果、炭酸ガスを主とした温暖化ガスが地球の周りに蓄積して地球の気温を高めてしまった帰結といわれています。これらの現象は人の生活環境の劣化をもたらすと共に、食糧危機、難民の発生につながり、更にはすべての生き物にとっての生存の基盤を揺るがす危機といわれています。

この世界規模の「気候危機」を克服するために、2015年にパリ協定が採択されて、世界共通の長期目標が採択されました

- ◆1. 世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2度Cより十分低く保つと共に、1.5度Cに抑える努力を追求すること（2度C目標）
- ◆2. 今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成すること（カーボン ニュートラル）

上記の2. が、カーボン ニュートラルを示す部分で、2050年に地球上で人為的に発生する炭酸ガスの量と除去される量（植物に吸収される量と色々な方法で除去される量の合計）を均衡（ニュートラル）させようという目標です。つまり、2050年以降地球上の炭酸ガス量を増やさないことを意味します。（注：地球温暖化の原因とされるガスは炭酸ガスだけではありません。多種類の地球温暖化ガスを、ここでは大部分を占める炭酸ガスで代表しています。）・・・以下3頁に続く。

校区住民協理事（会計担当） 鈴木 為 之

## 令和4年2月度役員会

時 30分～15時 15分、久木会館 参加者：16

開催日時と場所：2022年2月5日（土）、13 名（内役員13名）

### 議題

#### (1) 事務局からの報告事項

① コロナ禍対応について：市から出されている  
関連情報の説明があった。

② 逗子市住民協連絡会（1・28実施）報告  
・久小校区住民協の2022年度予算申請：市民

協働課の了承が得られた。今後、議会での承認を経て決定され、5月に支給される予定。

・ダイヤモンドタクシー：アーデンヒル地域における、高齢者の交通アクセスの一助として立案された本件の実証運行状況について説明があった。結果として大幅な赤字となっており、久木地区としても共通の課題として注視しているが、どのように対処されるのか、フォローする必要がある旨説明があった。

・議員と住民協の関係性：沼間地区であった市議会議員の住民協参画のトラブルについて紹介があり、配布資料⑤に基づいて、住民自治協議会への市議会議員の参画留意点について周知された旨報告された。

・小坪地域での安否確認実施例：小坪住民協から亀ヶ岡団地、小坪自治会などで安否確認を5・6

## (2) 審議事項

① 総会資料の件：4月23日に予定している2022年度総会の資料、第一号議案「2021年度活動各部会・第四号議案「2022年度活動計画」案について紹介された。

各部会・久木会館の「21年度活動報告及び」22年度活動計画を2月末までに取りまとめ、事務局にメールで送付するよう要請された。それらを事務局が総会資料として取りまとめ、次回役員会に提示する予定である旨説明された。

② 久木小学校地区年代別人口：海野氏（ハイランド）から提供された首題資料を住民協の次代を担う人材開拓・参画戦略などに役立つように取りまとめ、総会に提示したいとの意見が出された。

## (3) その他

① 会館コピーマシン変更の件：リースマシンに変更される事が報告された。来月納入予定、コインバンダー付き、マシンを事務所から外に出し、

年前から実施しているとの報告があり、住民協でまとめて対処すべきとの意見具申をした旨報告された。

③ 次期「逗子市福祉プラン、地域福祉推進計画、地域福祉活動計画」策定に伴うヒアリング調査：1月27日に首題のヒアリングで、市が実施したアンケート集計結果の報告があり、各団体が意見を具申する形式で実施され、意見として、福祉活動・ボランティア活動に参加するキッカケがなくて参画しにくいとの意見が多数あつた旨報告された。事務局より、市が実施したアンケート集計結果を、「ふれあい部会」で討議すれば、新たな意見が出される可能性があるとの、廣川氏、龍村氏に企画するよう打診された。また、廣川氏より、首題の会議の議事録を後日提示する旨報告された。

本件に関しては、種々意見が出されたが、最終的に、総会には「久木小学校地区 年代別人口棒グラフ」のみを提示し、提示した趣旨を言葉で補足することとなった。

③ 拡大朝市の件：門脇氏より、現在PTAの方々に案内状を送付し、出店者を募集中。2月中旬には出店者を決定する予定との報告があった。

本件はコロナ禍で3月開催が出来ない可能性もあるが、地域・世代間交流機会の創出などの効果が

期待できることから、時期がずれても開催出来るよう、粛々と準備を進めていくことが確認された。

④ 2022年度収支予算書(素案)提示の件：素案につき説明があった。

会館利用者も使用可能とする予定。住民協はカード利用で積算し、後払いとなる。また会計より、住民協としては、プリンターを用意しているので、そちらも利用するよう要請された。

## 《2022年度総会の予告》

下記の要領で久小校区住民協の総会の開催を予定しています。奮ってご参加ください。

日時と場所：4月23日（土） 14：00～16：00 地域活動センター・久木会館

後日、お手元に案内状送付します。

校区住民協事務局

## 《トピックス》

### 「話そう ワイワイ！ Y Y C + 青空子ども会」

校区住民協 副会長 龍 村 敦 子

(山の根自治会 会長)

私が自治会イベント活動を広報宣伝するときに思いうかべる筆頭はY Y Cと子ども会です。子ども会はともかく Y Y C って何？ですよ。ね。「山の根ヤングチーム略してY Y C」。私はヤングであると自認すればだれでもメンバーになれるハズのゆるいチーム。自治会の応援団と私は認識しています。餅つき大会、山の根の里の開墾、台風の時の見回りと残材処理、高齢者のサポート等々。自ら気づいたこと、頼まれたこと、若くなければできないことなどを代表も会長もないゆるいグループで動いている。結成3年が経っています。一方青空子ども会も

元気です。市内の子ども会が消滅する中、山の根久木は健在でうれしいですね。そんな若者集団Y Y C 4名と子ども会の次年度役員さん2名とワイワイ話すミーティング 1 回目をオンラインでひらいたのが2月5日土の17時から18時半。

自治会のミーティングなので、議題はあります。この日のテーマは次年度に Y Y C と子ども会と一緒にやる事業計画の紹介と協力要請。①30歳から64歳のアンケートに関すること。②トーテムポール広場に設置する山の根のシンボル「ヤマーネ」の制作のこと③自治会広報連載記事、「ごみから地球環境を考える」について④久木朝市で社会福祉協議会とコラボしたお互いさま活動の続きの事業のこと。以上4点。この頭出しミーティングでもステキ♥な意見がいっぱい出てホクホクしてます。

第2回目は4月以降。後日談をまた報告いたしますね。

#### (拡大) 朝市開催の予告

住民協では、好評を頂いている朝市を、より多くの方に参加いただけるよう、久木小校庭で下記の予定で開催します。

日時：3月27日(日)、10時～13時

場所：久木小校庭(雨天の際は久木会館)

## 《レポート》

### カーボン ニュートラル(続き)

#### 3. 温暖化炭酸ガスの発生源

地球温暖化に係る炭酸ガスがどこから発生しているかという、化石燃料といわれる石炭・石油・天然ガスなど地下に眠っていた資源からです。産業革命以降使われ始めたこれらの化石燃料が、色々な部門のエネルギーとして使われています。地球の歴史で言えば、3億6千万年前からで始めた森林が石炭・石油或は天然ガスに形を変えて地下に閉じ込めてきた炭素を、産業革命以降の約300年の間に掘り起こして、炭酸ガスの形で地上に放出してきたわけです。

温暖化炭酸ガス発生量の内、エネルギーとして使われて発生するものが、全体の93%を占めています。

因みにエネルギー以外の発生源としては、原料として石油が使われたプラスチックを廃プラと

#### 「カーボン ニュートラル」を連載

カーボンニュートラルは人類生存のための世界共通の目標、私達の生活の基本となります。2050年の実現に向けて、今行われている活動を平易に俯瞰し、連載として掲載予定です。

して焼却する際に、及び石灰石(主成分が炭酸カルシウム)からセメントを焼成して作る際に発生する炭酸ガスがあります(後出)。

#### 4. グリーンエネルギー

炭酸ガスは、経済活動や日常生活に伴って排出されています。その内で私たちの日常生活に伴う排出が6割を占めているといわれています。従って、私達のライフスタイルに大きな関わりがあります。

日常生活に係る電気・上下水道・ガス・交通・電話等のインフラ、衣食住の生活物資の生産や流通、或いは車のガソリン等々、全ての物や手段にエネルギーが使われています。エネルギーに因る炭酸

ガスの排出量は全体の 93%を占めているので、エネルギー源（1 次エネルギー）を炭酸ガスを発生させない「グリーンエネルギー」に変えていくことがカーボンニュートラルを達成する最も大切な活動です。

次の様な 1 次エネルギーがあります。

水力、風力、太陽光（熱）、地熱：

炭酸ガス排出せず。（グリーンエネルギー）

バイオマス （同上）

（植物由来の炭酸ガスはカウントされない。）：

原子力 （グリーンエネルギーには含まれない）

（安全性に課題がある。）

石炭、石油、天然ガス：（化石燃料）

排出する。

1 次エネルギーは約 40%が電力（2 次エネルギー）に変換されて使用され、残りがそのままの形で燃料や動力源として運輸・産業或いは民生用に使われています。カーボンニュートラルを達成するためには、全ての部門で使われる電力は、全て炭酸ガス発生なしで作られることが必要です。そしてグリーンエネルギー（1 次エネルギー）は化石燃料とは違い、そのままの形では使えないので殆どが電力（グリーン電力）に変換されて使用されます。再生可能エネルギー（再エネ）という言葉が使われていますが、グリーンエネルギーと同義です。

日本で電力を全てグリーン電力にするには高いハードルがあるといわれています。日照や風などの自然条件、土地や海などの立地が限られているからです。

その高いハードルを越える一つの手段が懸案とされる原子力です。原子力を含めた炭酸ガスを発生させないという意味のグリーンエネルギーの

割合は、東日本大震災以前には 20%でしたが 2018 年には 12%に低下しました。これは原子力が使用困難となったためであり、化石燃料を廃止していく上で原子力の扱いをどうするかが極めて大きな課題となります。

電力はその性格上、発電量と需要量を一致させておく必要があります。自然エネルギーが日照や風の具合で発電量変動するのを補って、需要量に見合った電力を確保することが必要です。例えば、太陽光発電が減少する夜間は火力発電で補う、昼間に余剰電力が発生した場合は蓄電池に貯めておくとかの手段です。このような調整電力を確保する化石燃料を使う火力発電は皆無にすることはできません。その際発生する炭酸ガスは、貯留（CCS）しておくか、再利用（CCUS）する技術開発が併せて必要です。

世界で最もクリーンエネルギーへの変換が進んでいるといわれる国の一つであるデンマークでは、原子力発電は採用せずに、遠浅と風のある北海の自然を活用して風力発電によって 2025 年には全電力の 5 割を賄い、発生する余剰電力は、自然エネルギーのデメリットとされる気象の変化に対応できるように、各家庭に備わった蓄電池に蓄えるようにして、社会全体で取り組んでいます。

（注）：炭酸ガスを発生させないエネルギー（電力）を、一般的にクリーンエネルギー（電力）と呼び、特に水力・太陽光・風力・地熱・バイオマス（原子力を含まない）等の再生可能エネルギーをグリーンエネルギー、作られた電力をグリーン電力、グリーン電力を使って水の電気分解により作られた水素をグリーン水素と定義しています。

（次回は、5. 水素社会とクリーン燃料）

鈴木 為 之（山の根在住）

## 編集後記

「住民協ひろば」当月号より脱炭素社会（カーボンニュートラル）への挑戦をテーマに特集記事を何回かに亘り掲載致します。鈴木理事の発案で私も大賛成の企画です。2020 年 10 月に当時の菅総理大臣が「2050 年までに我が国は、温室効果ガスをゼロにすると公式表明した事は記憶に新しい所です。最近、世界の至る所で地球温暖化による干ばつ、風水害等が頻りに報じられることが多くなりました。2050 年というとまだ先のような印象を受けますが、温室効果ガスによる異常気象は待ったなしです。今から直ぐに対応を取らないと大変な事態になるのです。最近の新聞等メディアで取り上げられる題材はカーボンニュートラル関連のものが目を惹きます、そんな人類の危機感から、新しい技術革新の方向も脱炭素社会に寄与する新技術に向けた動きが大きな流れとなっている様です。個人の生活の在り方、社会の在り方自体も大きく見直す時期に来ている様です。